

## 令和5年度 きのくにコミュニティスクール座談会

**趣 旨：**市町村教育委員会が、きのくにコミュニティスクールの仕組みを生かした学校運営や推進の方策について、協議・情報交換を通して一層理解を深め、所管する学校の学校運営協議会及び地域学校協働活動等に対する実効性のある伴走支援体制の構築を図る。

**対 象：**各教育委員会コミュニティ・スクール担当者（学校教育課・社会教育課から担当者の出席を依頼）

### 会場等

	西牟婁会場	紀北会場	東牟婁会場	紀中会場
開催日 (R5.14時~16時)	11月20日(月)	11月28日(火)	12月21日(木)	12月22日(金)
開催市町村	すさみ町	紀の川市	那智勝浦町	湯浅町
会 場	すさみ町多世代交流施設 イコラ カフェ休憩所	古民家 山崎邸	交流センター太田の郷	湯浅町えき蔵
参 加 者	8名 (田辺市、印南町、上富田町 白浜町、すさみ町)	10名 (和歌山市、海南市、橋本市 紀の川市、岩出市、高野町 九度山町)	12名 (串本町、みなべ町、新宮市 古座川町、北山村、太地町 那智勝浦町)	9名 (有田市、御坊市、有田川町 湯浅町、由良町、日高町 日高川町)
参加CSマイスター	下田 喜久恵 氏 中谷 有美子 氏	大谷 裕美子 氏 音無 長裕 氏	大谷 裕美子 氏 中谷 有美子 氏	音無 長裕 氏 下田 喜久恵 氏



## 事例発表内容

西牟婁開催：川端 紹義 氏（上富田町教育委員会 学校教育班 コミュニティスクール推進員）

今年度は教職員への一層の推進を図るため、町内全校（5小1中）に、県CSマイスターを派遣し、現職教育等において研修を行った。教職員が、「かみとんだコミュニティスクール」と「かみとんだ共育コミュニティ」の一体的推進について学び、「学校は何ができるか」「学校は何をしなくてはいけないか」等の活発な協議を行うことができた。教職員の知識・理解や当事者意識を高めることで、地域とのさらなる連携・協働につなげていきたいと考えている。

紀北 開催：太田 健治 氏（岩出市教育委員会 教育部教育総務課 指導主事）

教育委員会内において、教育総務課と生涯学習課からなるプロジェクトチームを組織し、学校運営協議会への訪問や定期的な情報共有を行っている。また、市内全校（6小2中）の校長、教職員、学校運営協議会会長を対象とした研修会を両課共催で実施し、県CSマイスター派遣事業や県地域学校協働活動アドバイザー派遣事業を活用しながら学び合うなど、学校教育担当課と社会教育担当課が連携・協働し岩出市のコミュニティ・スクールの推進を行っている。

東牟婁開催：井上 孝弘 氏（古座川町教育委員会 副課長兼指導主事）

古座川町では以前から地域のヒトやモノを活用した地域学校協働活動が活発に実施されている。また、さらなる学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進を図るため、県CSマイスター派遣事業を活用し、全ての学校運営協議会委員を対象とした研修を実施した。この研修によって得られた助言や参考意見をもとに、コーディネーターの設置や研修、広報の工夫など、推進に向けた新たな手立てを準備している。

紀中 開催：片山 浩 氏（御坊市教育委員会 教育総務課 課長補佐）

御坊市内の学校運営協議会のさらなる推進に向け、県CSマイスター派遣事業を活用し、市内全校（6小4中）の学校長を対象とした、CSマイスター懇話会を計3回実施した。CSマイスター、学校長、行政担当者の少人数（4～6名）の会にすることで、現状や課題、学校運営協議会の協議方法等について本音で議論することができた。マイスターからの具体的な事例を交えながらの提言を参考に、教職員と地域住民が連携・協働し、学校運営協議会の活性化につながるよう推進を図っている。

## 情報交換

### 成果が出ている取組（⊙）と、その要因と考えられる取組（☞）

- ⊙ 学校教育担当課と社会教育担当課が連携・協働できている。（風通しが良い。）
  - ☞ 担当の思いを教育長へ伝え、両課にまたがるCSチームを組織立てた。
- ⊙ ボランティアに参加してくれる地域の方が増えている。
  - ☞ 隅々まで届くよう、広報を工夫した。
- ⊙ 地域とのつながりが強くなっている。
  - ☞ 使えるつながり（人脈等）を最大限活用した。
- ⊙ 進捗状況に応じたCS理解を推進する取組
  - ☞ 学校運営協議会委員との雑談からつぶやきを拾い、次の取組につなげている。



### 課題（☂）と、その解決策（☞）

- ☂ 地域の関係が希薄
  - ☞ 公民館の活用（館長のリーダーシップ）
  - ☞ 学校（こども）に関わる人材養成講座の開催
- ☂ 教職員への推進（CSの知識・理解）
  - ☞ 校長のリーダーシップ（現職教育で研修）
  - ☞ 行政担当者のレベルを上げる。（教職員への研修で講師を務められるレベルの知識と理解）
- ☂ 学校運営協議会委員、ボランティアの高齢化
  - ☞ 学生に声をかける。
- ☂ 学校運営協議会委員の入れ替え。
  - ☞ 委員の入れ替えを決定するのは、行政（教育長など）の仕事
  - ☞ 退任された委員へのフォローもしばらくはお忘れなく。例）お便り配り続けるとか。





### 課題（☂）と、その解決策（☞）

- ☂ 地域からの声が強すぎて、地域に苦手意識をもつ教員がいる。
  - ☞ 校長がハンドル・ブレーキとなり地域との調整をする。
- ☂ 学校運営協議会で課題について協議するが、活動へとつながらない。
  - ☞ できそうなことから手を付ける。（成功体験につながる。）
  - ☞ 課題だけではなく、今あるものをもっとよくしていこうと協議することも大切
- ☂ 人（行政担当者、校長、学校運営協議会会長）が代わると、できなくなることがある。
  - ☞ できる人がいるときに一緒（平行）に進めることで、人材が育つ。
- ☂ 学校や校長によって熱量が違う。
  - ☞ その状況を認めながら、他校の様子を知る機会や交流を計画する。



### CSマイスターから

- ・ 行政と学校との感覚のズレを検証し改善することで、実効性のある伴走支援が可能となる。
- ・ コーディネーターの設置に困難さを感じているのであれば、設置の方法を工夫してみても（中学校区に1人ずつ設置するなど）
- ・ コミスクカレンダーをつくることで、活動スケジュールが見える化することができる。
- ・ 教員を部会の中に配置することで、コミスクに対する教員の理解促進が期待できる。
- ・ 社会教育と学校教育の連携が大事。うまく役割分担することがポイントとなる。
- ・ 教員が学校の課題を出し合い、解決できないことを学校運営協議会の議題にする方法もある。
- ・ コミュニティ・スクールの制度を活用して、一人でも喜んでくれる人がいたら成功
- ・ とりあえずやってみて、うまくいかなかったらやめるというゆるい姿勢も大切

## 参加者アンケート

### ○令和5年度中に取り組みたいこと

- ・来年度の学校運営協議会委員を再考するための発出文章を作成 ・来年度の方向性の検討、準備
- ・校長に、マイコミスクプランを考えてもらう。
- ・共育コミュニティ推進協議会、学校運営協議会連絡協議会で研修を実施
- ・教頭、館長を対象としたCS座談会 ・所管する学校の代表（校長・学校運営協議会委員）を対象とした研修の実施
- ・公民館との研修や現場教師とのつながりづくり。
- ・学校運営協議会委員、教職員に対し、CSの正しい理解を広めて認識を変えていけるよう、県CSマイスター派遣事業の活用
- ・学校運営協議会への訪問
- ・協議会メンバーに対する熟議の機会提供 ・協議会で熟議ができるよう、行政からファシリテーターとして出向く。
- ・地域の公民館の情報と学校の情報を集約し、全体で共有する。



### ○令和6年度に取り組みたいこと

- ・学校運営協議会委員の刷新
- ・令和5年度より、さらに研修などを導入し、学校と地域が課題を1つでも解決していく力をつける。
- ・中学校区でこどもを交えた熟議
- ・学校教育課と生涯学習課のつながりの組織化
- ・地域関係の希薄化を解決する手段として、公民館を活用し学校に関わる人材養成講座を開催したい。
- ・中学校区ごとの教員と地域ボランティアとの意見交流会
- ・こどもからスタートした小中連携の地域清掃が広がるための支援
- ・校長（教職員）を対象とした研修の充実 ・教職員や運営委員対象の研修会や座談会
- ・学校運営協議会会長のみによる研修会や交流会（校長がいないところでの交流会も重要）
- ・学校管理職と運営協議会委員を集めた研修会の強化と継続。地域学校協働活動の拡充
- ・教育情報誌の発行、訪問型家庭教育支援活動を通しての地域・学校との連携強化
- ・町内でのコミュニティ・スクール研修会